

平成 29 年 6 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社カイオム・バイオサイエンス
代表者名 代表取締役社長 小林 茂
(コード：4583 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 経営企画室長 美女平 在彦
(TEL. 03-6383-3746)

がん治療用抗体 LIV-1205 及び LIV-2008b のオプションライセンス契約についてのお知らせ

当社は、平成 27 年 5 月 26 日開示の「子会社の癌治療用抗体 LIV-1205 のオプションライセンス契約締結についてのお知らせ」及び平成 28 年 3 月 14 日開示の「がん治療用抗体 LIV-2008b のオプションライセンス契約締結についてのお知らせ」に関しまして、ADC Therapeutics 社（本社、イパリンジェス、スイス、以下、ADCT 社）より、以下のとおり通知を受領したのでお知らせいたします。

1. オプション権の行使について

(1) がん治療用抗体 LIV-1205 (オプション権行使)

がん治療用抗体 LIV-1205 (以下、LIV-1205) においては、ADCT 社がオプション権を行使する旨の通知を受領しました。今後、同社とライセンス契約を締結することとなりますが、本契約締結により、当社は ADCT 社に LIV-1205 の Antibody Drug Conjugate (以下、ADC) 開発用途での全世界における独占的な開発・製造・販売権を供与することになります。本契約の締結に伴い、当社は ADCT 社よりライセンス契約一時金を受け取ります。今後、ADCT 社において臨床試験実施に向けた研究開発が推進される予定です。

なお、LIV-1205 の ADC 開発用途以外での権利は引き続き当社が保持し、開発及び導出活動を継続いたします。

(2) がん治療用抗体 LIV-2008b (オプション権不行使)

がん治療用抗体 LIV-2008b (以下、LIV-2008b) においては、ADCT 社にて ADC 開発用途での評価を行ってまいりましたが、同社からオプション権を行使しない旨の通知を受領しました。これにより ADCT 社とのオプションライセンス契約は終了いたしますが、今後当社は、得られている前臨床データに基づき、引き続き開発及び導出活動を継続いたします。

2. 今後の見通し

LIV-1205 の ADC 領域でのライセンス契約締結及び契約締結に伴う収益の獲得は、当社の創薬事業の業績に寄与するものと考えておりますが、平成 29 年 12 月期業績への影響は精査中であり、判明しましたら速やかにお知らせいたします。

当社は今後、ADCT 社との連携を強固にし必要とされる支援の実施に努め、今後のマイルストーン収益の獲得を目指して尽力して参ります。

<ADC について>

抗体薬物複合体 (Antibody Drug Conjugate) のことを指します。ADC の特徴は、悪性腫瘍や炎症性疾患等の目的の組織や細胞表面タンパク質 (抗原) に特異的に結合する抗体に抗がん剤等の薬物を結合させることにより、薬剤を病変部位に選択的に到達させ、細胞内に放出させることで、がん細胞等を死滅させることができます。

<ADC Therapeutics 社について>

ADCT 社はスイスのローザンヌ地方に本社を置く ADC 開発のリーダーで、独自の ADC 技術を用いて、固形が

んおよび血液がんを対象としたがん治療薬を開発しています。

現在は、ADCT-301 と ADCT-402、ADCT-502 の 3 つの ADC の臨床試験を実施しております。

なお、ADC Therapeutics 社に関する詳細情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.adctherapeutics.com/>

<LIV-1205 について>

LIV-1205 は、肝臓がんを中心とする固形がんの細胞表面に発現している抗原（標的分子）「DLK-1 (Deltalike 1 homolog)」に結合し、がんの増殖活性を阻害するヒト化モノクローナル抗体です。DLK-1 は、幹細胞や前駆細胞といった未熟な細胞の増殖、分化を制御すると考えられており、肝臓がんの細胞表面に発現し、その増殖に関与していることが発見された、新しいがん治療の標的になりうる可能性がある分子です。

<LIV-2008b について>

LIV-2008b は、乳がん、大腸がん、肺がんをはじめとする多くの固形がんの細胞表面に発現している抗原（標的分子）「TROP-2」に結合した後に細胞内に取り込まれるインターナリゼーション活性を有しています。また、抗体単独投与においても、がんの増殖活性を阻害するヒト化モノクローナル抗体です。TROP-2 は正常組織と比較して、上記の複数の固形がんにおいて発現が亢進していることから、がん治療の標的として注目されている分子です。

以 上